

本 会 報

会長退任挨拶

平成 26 年 3 月、過去 2 年間務めさせていただいた日本育種学会会長を退任し、吉村新会長へバトンタッチをしました。退任するに当たり、日本育種学会の一般社団法人化への方針と取り組みについて説明し、会員の皆様のご理解をいただきたいと思います。

日本学術会議には約 2000 の学協会が登録されていますが、すでに約 2 割の学協会が法人化されています。2008 年、公益法人改革三法の制定・施行に伴って一般法人格の取得が容易になったことを受けて、学術会議では任意団体（法人格なき社団、財団）である学協会の法人化に向けた取り組みを進めています。ところで、学会を法人化すると、何かメリットがあるのか、という素朴な疑問が起きます。育種学会が想定している一般社団法人化には特段のメリットはないと思います。その一方、法人格を持たない学協会では、主体が団体であるのか、団体代表の個人であるかの区別が困難であるという点が最大の問題です。育種学会では、学会が所有するすべての資産が会長の個人名義となっていますので、会長に不幸があると名義人を替えるまで資産は凍結されることになり、日常活動に深刻な支障が生じます。学会の法人化はコンプライアンスやリスクマネジメントにとって重要な課題です。そのため、できるだけ早期に日本育種学会の一般社団法人化を進めていくと決断しました。

平成 26 年 3 月に開催された幹事会では、法人化に向けた準備を進めることが承認され、平成 27 年春季大会での承認と登録申請をめざして準備していくことになりました。今後、定款案の検討、現状と法人化後の組織運営の違いなどを明示しながら、会員間での議論を重ねて、会員の理解が得られるように努めていきます。今後の準備は新執行部に引き継がれます。会員皆様のご協力を切にお願いします。

2014 年 5 月
日本育種学会前会長
奥野員敏

会長挨拶

学会員の皆様には、平素より日本育種学会の活動にご協力、ご支援をいただき、御礼申し上げます。

平成 26 年 4 月より、奥野員敏前会長の後を受け、日本育種学会会長を務めております吉村淳です。平成 26、27 年度の 2 年間、各地区選出の幹事、常任幹事および各種委員の皆様と力を合わせて、日本育種学会の発展に微力ながら力を尽くす所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年度まで、将来構想委員会において、学会が直面する問題点の整理とその対策について議論がなされ、その成果として以下の 3 点が指摘されました。

- (1) 会員数増加に向けた取り組み
 1. 地域活動の活発化による会員数の確保
 2. 会員の利便性の向上による会員数の確保
- (2) BS の国際的評価の向上（当面 IF1.5 を目指す）
- (3) アジア諸国を軸にした学会の国際化の強化

この将来構想委員会からの指摘を受け、それぞれの向上・強化に向けた取り組みを少しでも促進するよう、力を尽くしたいと考えております。また、奥野前会長の退任挨拶にありますように、日本育種学会の一般社団法人化を進めてまいりたいと考えております。会員の皆様のご理解とご協力を切にお願いいたします。

さて、最後になりまして恐縮ですが、平成 24 年と 25 年度の 2 年間、日本育種学会の運営にご尽力いただいた、奥野前会長、福岡前総務第一、横井総務第二をはじめ幹事、常任幹事、各種委員の皆様に、心より御礼申し上げます。

日本育種学会
会長 吉村 淳

学会だより

◇ 常任幹事会議事録

日時：2014 年 2 月 22 日（土）15：00～18：30

場所：東京大学大学院農学生命科学研究科

出席者：奥野員敏、吉村淳、熊丸敏博、福岡修一、横井修司、岩田洋佳、阿部純、笹沼恒男、奥本裕、友岡憲彦、片山健二、犬飼義明、北野英己、加藤謙司、大坪憲弘、一谷勝之、有村慎一

欠席者：宅見薫雄、佐藤和広

各常任幹事から経過報告後、平成 25 年度決算案の検討、平成 26 年度予算案の検討、編集委員の推薦、2015 年春季大会開催地および開催日程、学会の所在地変更、税金対策と法人化、幹事会の議題、総会の式次第に関して討議を行った。

◇ 幹事会議事録

日 時：2014 年 3 月 20 日（水）午後 3 時～午後 6 時

場 所：東北大学川内キャンパス講義棟 B104 室

出席者：阿部純、加藤清明、笹沼恒男、横井修司、千田峰夫、中村俊樹、西尾剛、石本政男、江面浩、林武司、矢野昌裕、山本俊哉、佐々英徳、房相佑、岩田洋佳、堤伸浩、平野久、北野英己、犬飼義明、野々村賢一、岩崎行玄、奥本裕、宅見薫雄、斎藤大樹、寺石政義、加藤謙司、佐藤和広、熊丸敏博、一谷勝之、坂井真、松田靖、福岡修一、吉村淳、奥野員敏、片山健二、貴島祐治、北柴大泰、吉田薫、二宮正士、矢野健太郎、吉田均、半田裕一、

小松田隆夫, 金子幸雄, 富田因則, 中園幹生, 松元哲, 掛田克行, 村井耕二, 築山拓司, 吉川貴徳, 甲斐浩臣, 安井秀, 最相大輔, 高牟禮逸朗, 宍戸恵理子, 佐藤豊, 今村順, 荻原保成 (計 59 名)

欠席者: 三上哲夫, 高溝正, 川上直人, 松岡信, 近藤勝彦, 友岡憲彦 (計 6 名)

委任状: 原田竹雄, 岩永勝, 大澤良, 木庭卓人, 辻本壽, 山岸博, 大坪憲弘, 有村慎一, 佐藤裕, 三浦秀穂, 高畑義人, 石川隆二, 三吉一光, 梅原三貴久, 清水顕史, 草場信 (計 16 名)

1. 報告

各常任幹事経過報告

- ・総務 (福岡): 会員数の推移, BS 印刷契約, 広告代理店契約, 税理士顧問契約についての報告がなされた。
- ・科研費・ホームページ (宅見): BS 科研費の執行, シンポジウム科研費の申請, HP の更新およびメール配信について報告された。
- ・農学会 (岩田): 農学会の新会員, 農学会大会の開催予定および日本農学会シンポジウムについて報告された。
- ・地域: 各地域 (北海道, 東北, 中部, 近畿, 中国四国, 九州沖縄) 幹事より地域活動について報告された。
- ・LMO (熊丸): 名古屋議定書について報告された。
- ・編集 (英文誌: 片山): 今年度の編集状況と IF, アプラーナ特集号の進捗状況, パレイショ特集号の計画について報告された。
- ・編集 (和文誌: 北野): 今年度の編集状況, 事務局の交代について報告された。
- ・集会 (犬飼): 第 125 回講演会・第 64 回総会 (東北大学) の演題数, 次大会 (南九州大学) の開催予定, 鹿児島大会のアンケート結果について報告された。

2. 議事

1) 平成 26-27 年度の役員 (指名幹事, 常任幹事) および各種委員について

会長副会長選挙結果, 次期役員, 各種委員について提案がなされ, 承認された。

2) 平成 26-27 年度会計監事について

平成 26-27 年度の会計監査について報告がなされた。

3) 平成 26 年度学会賞選考委員 (6 名) の選出

平成 26 年度学会賞等選考委員に関する投票がなされ, 6 名の選考委員が選出された。なお, 委員長は内規に従い副会長が務める。

平成 26 年度学会賞等選考委員: 矢野昌裕氏, 江面浩氏, 佐藤和広氏, 高畑義人氏, 熊丸敏博氏, 草場信氏 (次点: 荻原保成氏, 加藤謙司氏, 貴島祐治氏, 石本政男氏, 中園幹生氏)

4) 平成 26-27 年度シンポジウム委員 (5 名) の選出

平成 26 年度シンポジウム委員に関する投票がなされ, 5 名の委員が選出された。

平成 26 年度シンポジウム委員: 岩田洋佳氏, 村井耕二氏, 中園幹生氏, 小松田隆夫氏, 石本政男氏 (次点: 石川隆二氏, 半田裕一氏, 吉田薫氏)

5) 第 11 回 (平成 25 年度) 論文賞の選考

学会賞等選考委員会より推薦された 3 編の論文について, 出席した幹事の投票により以下の論文が論文賞として承認された。

論文名: Potential assessment of genome-wide association study and genomic selection in Japanese pear *Pyrus pyrifolia*
著者名: Hiroyoshi Iwata, Takeshi Hayashi, Shingo Terakami, Norio Takada, Yutaka Sawamura and Toshiya Yamamoto
掲載号・頁: Breeding Science 63(1): 125-140

論文名: Diversification and genetic differentiation of cultivated melon inferred from sequence polymorphism in the chloroplast genome

著者名: Katsunori Tanaka, Yukari Akashi, Kenji Fukunaga, Tatsuya Yamamoto, Yasheng Aierken, Hidetaka Nishida, Chun Lin Long, Hiromichi Yoshino, Yo-Ichiro Sato, Kenji Kato

掲載号・頁: Breeding Science 63(2): 183-196

論文名: Population structure in Japanese rice population

著者名: Masanori Yamasaki and Osamu Ideta

掲載号・頁: Breeding Science 63(1): 49-57

6) 平成 25 年度決算・会計監査結果の報告

担当幹事から資料に基づいて説明がなされ, 原案通り了承された。会計監査結果が併せて報告された。

7) 平成 26 年度予算 (案) の検討

担当幹事から資料に基づいて説明がなされた。消費税増税への対応や大会費の開催校への送金などの質疑後に原案通り了承された。

8) 編集委員の推薦について

1 名の新編集委員が推薦され, 原案通り了承された。

新編集委員: 友岡憲彦氏

9) 会則の改定について

本会の事務所を東京大学から中西印刷に置くことが提案され, 原案通り了承された。

(新) 日本育種学会所在: 京都市上京区下立売通小川東入西大路町 146 番地

10) 税金問題と法人化について

奥野会長から, 税金問題と学会法人化に向けた経緯とこれまでの取り組みについて説明が行われた。質疑応答後, 今後の対応策と日程, 定款の策定など, 法人化に向けた準備を法人化準備委員会 (委員: 奥野員敏, 福岡修一, 横井修司) に一任することが了承された。

11) 平成 27 年春季大会開催地について

平成 27 年春季大会開催地に玉川大学 (今村大会委員長) に依頼することが提案され, 原案通り了解された。

3. 関連報告

- ・シンポジウム委員会 (村井): 資料に基づき報告がなさ

れた。シンポジウム委員の交代時期とシンポジウムの開催準備期間が異なる事などが説明、報告された。

- 将来構想検討委員会（横井）：資料に基づき会長への答申がなされた。会員増加、国際連携に向けた取り組みの対応策が会長に答申され、了承された。
- SABRAO（奥野）：筑波大学の育種学研究室が運営事務局を担っているが、対応が困難になっていることから、会費の徴収と日本国内の会員の会費の送金（IRRIへ）を中西印刷に委託することの是非を次期執行部で検討することが報告された。
- 記者発表（岩田）：平成26年3月13日に東京大学弥生講堂アネックス・エンゼル研究棟講義室において5課題について記者発表を行ったことが報告された。

4. その他

- 1) 優秀発表賞の投票について：優秀発表賞の投票用紙が幹事全員に配布され、投票について説明された。
- 2) 芦荻会員からの百科事典の執筆依頼について：芦荻会員が編集委員となっている百科事典の育種分野の執筆を育種学会で後援協力することで了承された。
- 3) 会長挨拶：奥野会長による退任挨拶がなされた。

◇ 総会議事録

開催日：平成26年3月21日（金）13:30～14:10

開催地：東北大学川内キャンパス教育情報基盤センターM206室

1. 各常任幹事報告 庶務（総務、農学会・科研費、ホームページ）、集会、英文誌、和文誌
幹事長から全ての報告がなされた。
2. 第11回（平成25年度）日本育種学会論文賞の発表
3編の論文が学会賞等選考委員会から推薦され、幹事会で承認されたことが報告された。
3. 議事
 - 1) 平成25年度決算報告・会計監査報告
担当幹事より平成25年度決算報告がなされ、会計幹事の報告がなされた後、原案通り承認された。
 - 2) 平成26年度予算案の承認
担当幹事より平成26年度予算案が提案され、原案通り承認された。
 - 3) 会計監事の選出
新会計監事に奥本裕氏が推薦され、原案通り承認された。
 - 4) 会則の改定について
日本育種学会の事務所を東京都文京区、東京大学大学院農学生命科学研究科から京都市上京区下立売通小川東入西大路町146番地に移すことが提案され、原案通り了承された。
 - 5) 税金問題と法人化について
奥野会長より学術団体における税に関する説明とその対策として法人化に向けた検討を行うことが説明され、了承された。

4. その他

- 1) 次期執行部（常任幹事）の紹介
幹事長より次期執行部（常任幹事）が紹介された。
- 2) 次期開催校（南九州大学）の紹介
次期開催校の南九州大学の陳委員長から挨拶がなされた。

◇ 平成25年度決算及び平成26年度予算

（単位：円）

収入の部	平成25年度決算額	平成26年度予算額
1. 繰入金	15,493,493	16,767,875
2. 会員会費	16,827,500	16,847,000
3. 賛助会員会費	800,000	800,000
4. 掲載料	870,000	1,150,000
5. 別刷 著者負担分	3,487,375	3,450,000
6. 別冊等頒布	3,464,000	3,490,000
7. 広告料	523,200	520,000
8. 寄付金	640,000	0
9. 雑収入	554,813	150,000
計	42,660,381	43,174,875

支出の部	平成25年度決算額	平成26年度予算額
I. 事業費		
1. 雑誌刊行費		
(1) 印刷費	7,334,507	8,800,000
(2) 雑誌発送費	436,029	450,000
(3) 英文校閲料	764,400	750,000
(4) オンライン校閲システム管理費	1,232,175	1,230,000
(5) 別刷印刷費	726,494	720,000
2. 別冊刊行費		
(1) 印刷費	2,825,894	3,000,000
(2) 別冊発送費	57,320	60,000
3. 大会費	1,704,548	1,200,000
4. シンポジウム費	114,830	400,000
5. 学会賞費	592,830	450,000
6. オンライン費	917,700	900,000
7. 名簿作成費	430,500	0
II. 運営費		
1. 学会分担金	314,428	310,000
2. 事務担当者手当	423,206	360,000
3. 事務費		
(1) 庶務	943,057	950,000
(2) 編集		
英文誌	871,222	100,000
和文誌	0	100,000
(3) 集会	64,315	200,000
(4) 会計	140,840	150,000
4. 事務委託費	4,401,600	4,401,600
5. 通信費・送料	641,640	600,000
6. 付属印刷物	230,133	200,000
7. 男女共同参画協会活動費	40,770	140,000
8. 地域活動費	399,890	400,000
9. 税理士顧問料	0	400,000
10. 雑支出	119,978	160,000
III. 予備費	164,200	160,000

IV. 繰入金		
次年度へ繰入 基金へ繰入	16,767,875 0	16,583,275 0
計	42,660,381	43,174,875

◇ 学会賞・奨励賞授与, 受賞講演

開催日:平成 26 年 3 月 21 日(金) 14:40~17:00

開催地:東北大学川内キャンパス教育情報基盤センター
平成 25 年度日本育種学会賞

- ・原田竹雄氏(弘前大学農学生命科学部):リンゴの日持ち性に関する分子育種学的研究
- ・超強力小麦「ゆめちから」育成グループ(農研機構・北海道農業研究センター):北海道の秋播栽培に適した超強力小麦品種「ゆめちから」の育成
- ・水稻品種「にこまる」「きぬむすめ」育成グループ(農研機構・九州沖縄農業研究センター):高温登熟耐性を有する西日本向け良食味・良質・安定多収水稻品種「にこまる」「きぬむすめ」の育成

平成 25 年度日本育種学会奨励賞

- ・田口和憲氏(農研機構・北海道農業研究センター):遺伝資源の発見から品種育成までを網羅したテンサイ黒根病抵抗性の遺伝・育種学的研究

◇ 第 125 回講演会日本育種学会優秀発表賞

2014 年日本育種学会春季大会(第 125 回講演会)における日本育種学会優秀発表賞が下記の 13 課題に決定された。

講演番号 512: 全ゲノムバイサルファイトシーケンシングによる茎頂メリステムのメチローム解析 ○辻寛之¹・才原徳子¹・東陽子¹・三浦史仁²・伊藤隆司²・玉置祥二郎^{1,3}・倉田哲也³・島本功¹(1. 奈良先端大・バイオサイエンス・植物分子遺伝学, 2. 東大・院理, 3. 奈良先端大・バイオサイエンス・植物グローバル)

講演番号 115: アズキのゲノム解読と近縁種との比較ゲノム解析 ○坂井寛章・内藤健・小木曾映里・加賀秋人・伊藤剛・友岡憲彦(農業生物資源研究所)

講演番号 P028: 全ゲノム解析で明らかとなった重イオンビーム誘発染色体再編成 ○平野智也¹・風間裕介¹・石井公太郎²・大部澄江²・白川侑希²・阿部知子^{1,2}(1. 理研・イノベーションセンター, 2. 理研・仁科センター)

講演番号 P107: ダイズミニコアコレクションにおける難解析形質のゲノムワイド関連解析 ○津田麻衣¹・渡辺啓史²・清水武彦¹・町田佳代¹・石本政男¹・加賀秋人¹(1. 農業生物資源研究所, 2. 佐賀大学)

講演番号 505: *O. longistaminata* の地下茎における腋芽成長に関する解析 ○吉田明希子¹・寺田康彦²・巨瀬勝美²・芦荻基行³・経塚淳子¹(1. 東大・院農生命科学, 2. 筑波大・院数理物質科学, 3. 名大・生命農学)

講演番号 218: 野生イネ (*Oryza rufipogon*) の遺伝的背景

における種子脱粒性遺伝子座間の相互作用 ○井上千鶴・Than Myint Htun・石井尊生・石川亮(神戸大・院・農学)

講演番号 410: イネにおける CRISPR/Cas システムを用いた変異導入 ○三上雅史^{1,2}・遠藤真咲²・土岐精一^{1,2}(1. 横浜市立大, 2. 生物研・ゲノム機能)

講演番号 507: イネの葉間期制御に関わる遺伝子の遺伝的相互作用 ○三村真生・長戸康郎・伊藤純一(東大院農学生命科学)

講演番号 P051: 嫌気還元条件下におけるコムギの根からの酸素漏出パターンの解析 ○西内俊策¹・渡邊宏太郎¹・安倍史高²・中園幹生¹(1. 名大・院生命農学, 2. 農研機構・作物研究所)

講演番号 P082: 澱粉粒の大きさを制御する *SSG4* 遺伝子の同定と解析 ○松島良¹・前川雅彦¹・草野都²・近藤秀樹¹・藤田直子³・坂本亘¹(1. 岡山大学資源植物科学研究所, 2. 理化学研究所環境資源科学研究センター, 3. 秋田県立大学生物資源学部)

講演番号 306: On-site 検査を実現する STH クロマト PAS 法を利用した品種識別技術の開発 ○門田有希¹・高崎一人²・川瀬三雄³・秋竹広翔¹・田原誠¹・布藤聡²(1. 岡山大・院環境生命科学, 2. 株式会社ファスマック, 3. 東北大・院医工学)

講演番号 P119: 植物における新規エンドサイトーシス制御分子の探索 ○入江明¹・藤本優²・黄嘉禾²・藤原正幸³・深尾陽一郎³・有村慎一²・堤伸浩²(1. 東大・農, 2. 東大・院農, 3. 奈良先端大・バイオ・植物グローバル)

講演番号 P126: ジャガイモの新奇エピゲノム編集法 ○葛西厚史・北條初音・原田竹雄(弘前大学農学生命科学部)

◇ 日本育種学会第 125 回講演会選定課題記者会見報告

発表日時:平成 26 年 3 月 13 日(木曜) 14:00~15:00
会場場所:東京大学弥生講堂アネックス・エンゼル研究棟講義室

出席者:熊丸敏博, 岩田洋佳

講演課題の中から選定された 5 課題について記者発表を実施した。

(1) 講演番号:202

「タイ国石灰岩地帯に見出された新たな *Vigna* 属遺伝資源」北澤久美子・高橋有・内藤健・Sompong Cankaew・入江憲二・友岡憲彦(東京農業大学・国際食料情報学部, 農業生物資源研究所, Kasetsart University)

(2) 講演番号:305

「長期貯蔵性に優れたポテトチップ加工用バレイショ新品種「リラチップ」の育成」藤田涼平・大波正寿・江部成彦・池谷聡・千田圭一・田中静幸・入谷正樹・伊藤武・古川勝弘(道総研北見農業試験場, 道総研十勝農業試験場, 道総研上川農業試験場, 道総研花・野菜技術センター, 道総研中央農業試験場, 元・道立北見農業試験場)

(3) 講演番号: 306

「On-site 検査を実現する STH クロマト PAS 法を利用した品種識別技術の開発」門田有希・高崎一人・川瀬三雄・秋竹広翔・田原誠・布藤聡 (岡山大学大学院環境生命科学研究科, 株式会社ファスマック, 東北大学大学院医工学研究科)

(4) 講演番号: 618

「'qESS11b' に穂発芽耐性遺伝子を集積することによって低温苗立性と穂発芽耐性は両立できる」山口琢也・伊山幸秀・杉本和彦・表野元保・藤田健司・村田和優・蛭谷武志 (富山県農林水産総合技術センター, 生物研, 富山県高岡農林振興センター)

(5) 講演番号: P009

「苦味とルチノシダーゼ活性の弱いダットンソバのスクリーニングと新品種「満天きらり」の育成」鈴木達郎・森下敏和・六笠裕治・野田高弘・瀧川重信・石黒浩二・横田聡 (農研機構・北海道農業研究センター)

◇ 地域談話会だより

〈東北地区〉

第 8 回東北育種研究集会開催報告

第 8 回東北育種研究集会が、弘前大学岩木ホールで 11 月 2 日 (土) に行われました。今年度から作物学会東北支部会の開催日には合わせず、11 月か 12 月に開催することになりました。3 連休の初日で天気にも恵まれたこともあり、65 名が参加されました。講演として、前半は青森県産業技術センター弘前地域研究所の五十嵐恵氏により「青森県におけるりんご育種のための DNA マーカー開発及び利用」、後半は公益財団法人環境科学技術研究所の山上睦氏により「土壌-作物系における放射性セシウムの挙動と植物による除染の可能性」が発表されました。五十嵐氏にはりんご育種における DNA マーカーの重要性、山上氏にはファイトレメディエーションによる放射性セシウム除去の難しさについて、わかりやすく解説していただきました。両講演の間、休憩を挟んで約 1 時間、24 題のポスター発表が行われ、熱心な討論がなされました。本研究集会閉会后、情報交換会 (懇親会) が行われ、30 名が参加し、有意義な情報交換を行うことができました。

本研究集会の開催は、中西印刷様のご協力を得て、東北地区の全会員にメールを通じて確実に周知することができました。

ポスター発表の題目は以下の通りです (○は発表者)。

P01 イネのカドミウム輸送体 OsHMA3 の C 末端領域の機能解析

○熊谷さおり・中澤伸重・佐藤 (永澤) 奈美子・高橋秀和・櫻井健二・渡辺明夫・赤木宏守 (秋田県大生物資源)

P02 DNA 修復欠損突然変異体を利用したイネ高変異率

突然変異リソース開発への試み

○星野友紀^{1,2}・杉本和彦² (1. 山形大農, 2. 農業生物資源研)

P03 マメ科植物の根における貧窒素栄養に応答する MYB101 の機能

○村山聡美・櫛引はるか・赤田辰治 (弘前大農学生命)

P04 ブナ実生の成長に及ぼす環境ストレスの影響と遺伝子多型の分析

○高橋瑛・三津谷慎治・軽部栄樹・諏訪邑子・赤田辰治 (弘前大農学生命)

P05 老化期特異的セルラーゼ発現による稲わらの糖化性の向上

古川佳世子¹・濁川睦¹・園木和典²・○伊藤幸博¹ (1. 東北大院農, 2. 弘前大農学生命)

P06 稲わらの生育段階による酵素糖化性の変化

○阿部友美¹・高橋裕貴¹・園木和典²・伊藤幸博¹ (1. 東北大院農, 2. 弘前大農学生命)

P07 稲わらの糖化性の品種間差異

○高橋裕貴¹・阿部友美¹・園木和典²・伊藤幸博¹ (1. 東北大院農, 2. 弘前大農学生命)

P08 アブラナ属 B ゲノムを構成する *B. nigra* における S ハプロタイプの同定

○金澤弘晃・小田島雅・北柴大泰・西尾剛 (東北大院農)

P09 シロイヌナズナのカドミウム耐性を向上させる *ago1* アリルの機能解析

○中村咲耶・小川夏穂・清水都乃・佐藤奈美子・高橋秀和・櫻井健二・渡辺明夫・赤木宏守 (秋田県大生物資源)

P10 ダイズモザイクウイルスによるダイズ鞍掛品種の着色パターンの変化

○平岡未帆・佐野輝男・千田峰生 (弘前大農学生命)

P11 トマト *SlVirp1* エピ変異体の獲得とその特性

○北條初音・葛西厚史・原田竹雄 (弘前大農学生命)

P12 ジャガイモのエピ変異体作出システムの構築

○栗原有美・北條初音・原田竹雄 (弘前大農学生命)

P13 低アミロース澱粉を生産するジャガイモエピ変異体の作出

○辻村玲和・北條初音・葛西厚史・原田竹雄 (弘前大農学生命)

P14 リンゴエピ変異体作出法 (GrIGS) の検討

○川出駿・原田竹雄 (弘前大農学生命)

P15 タイ自生地野生集団の遺伝的多様性の解析

○結城穂奈美¹・芦川育夫²・石川隆二¹ (1. 弘前大農学生命, 2. 作物研)

P16 ダイコンの根表皮におけるアントシアニン合成系酵素遺伝子及び転写因子の発現解析

○中田優・北柴大泰・西尾剛 (東北大院農)

P17 トウガラシ果実色決定遺伝機構における *Psy* 遺伝子の対立遺伝子変異の役割

- 笹沼恒男・稲葉有紀・阿部利徳（山形大農）
- P18 チモフェービ系コムギの野生種と栽培種のF₂集団で見られた栽培化関連形質の分離
○工藤瑛司・大谷修平・阿部利徳・笹沼恒男（山形大農）
- P19 最上紅花の花弁収獲用品種としての適性評価と主要農業形質の系統間比較
○相澤由佳里・高橋優利佳・笹沼恒男（山形大農）
- P20 北コーカサスで採集されたタルホコムギの穂の形態学的特徴付け
○赤池隆亮・柿崎彩佳・笹沼恒男（山形大農）
- P21 ‘恋ほのか’の高度胴割れ抵抗性の遺伝解析とWGSによるゲノム構成情報の利用
○山崎大地・田村和雅・石川隆二（弘前大農学生命）
- P22 オーストラリア野生イネの特性評価—浮きイネ性—
○外和昌大¹・一谷勝之²・石川隆二¹（1. 弘前大農学生命, 2. 鹿児島大農）
- P23 在来香り米「万石」の品種保全に関する研究
○吉田将基¹・猪谷富雄²・石川隆二¹（1. 弘前大農学生命, 2. 県立広島大生命環境）
- P24 ダイズの juvenile-adult 相転換を制御する因子の解析
○小澤傑¹・吉川貴徳²・長戸康郎²・高畑義人¹・横井修司¹（1. 岩手大農, 2. 東大院農学生命科学）

日本育種学会会員異動(2014.1.21 ~ 2014.4.20)

- ◇ 普通会員入会：佐藤浩二，鈴木和織，丹野久（北海

道），今智穂美（青森），河本健正（岩手），佐藤健介（秋田），國久美由紀，西谷千佳子（茨城）藤田健司（富山），濱岡載光（福岡）

◇ 学生会員入会：佐藤圭，土田まるみ（北海道），青柳沙緒莉，赤池隆亮（山形），AZMI CHOTIMATUL（茨城），藤田祥明（栃木），土屋有沙（千葉），大石千理（東京），岩淵裕之，鈴木翔太（長野），太田自由（愛知），琴梨世（京都），横田浩一（兵庫），川田亮太（香川）

◇ 外国会員入会：GEEKIYANAGE SUDARSHANEE, PADUKKAGE DUVINI CHATHURANGI, RATHNATHUNGA UDARI UVINDHYA（スリランカ）

◇ 外国団体会員入会：ANHUI AGRICULTURAL UNIVERSITY（中華人民共和国）

住所変更等

◇ 普通会員：勝田真澄（北海道），手塚耕一（秋田），安達俊輔，加藤晶子，木富悠花，三科興平（茨城），飯村一成（栃木），鈴木伸洋（東京），岩崎勇次郎，深井英吾（静岡），吉田朋史（愛知），山本有子（三重），山岡尚平（京都），谷坂隆俊，藤本龍（兵庫），奥田康仁（鳥取），小前幸三（香川），内村要介，下村克己，羽方誠，宮崎真行（福岡），古藤田信博（佐賀）

◇ 学生会員：山崎諒（広島）

逝去

中島哲夫氏（千葉）

慎んでご冥福をお祈りいたします。